



～次世代の医療のために～

以下の研究は、皆様よりNCNPバイオバンクに提供いただいた臨床試料（検体おもに血液・髄液等）と臨床情報の利用を倫理委員会で審査し、活用していただくことが認められた研究です。

この研究について知りたいことや、気になる点がありましたら、遠慮なく下記のバイオバンク窓口にご相談ください。ただし、個人情報の保護、知的財産権の保護により、ご対応・ご回答できない場合がありますので、予めご了承ください。

- ・本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。
- ・研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることは一切ございません。

【対象となる方】

2012/12/7～2020/2/29にご同意いただいた方

【研究課題名】 家族性および孤発性パーキンソン病の診断、治療バイオマーカーの探索

【研究責任者】 服部 信孝（順天堂大学 脳神経内科）

【本研究の目的及び意義】

パーキンソン病(PD)は神経変性疾患であるが、脳神経のみならず、全身の末梢自律神経にも病変が広がっており、全身病として捉えられる。現在までの検討でPDでは脂質代謝、酸化ストレス、カフェイン代謝が変化していることを見出している。本研究では血液や髄液から診断および病態に関わるバイオマーカーの探索を目的とする。

【本研究に提供している試料・情報】

血液、髄液

【問い合わせ窓口】

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センターバイオバンク

所属 メディカルゲノムセンターバイオリソース部

電話番号 042-346-3520

e-mail: biobank※ncnp.go.jp(「※」を「@」に変更ください。)